

2010年度『凜々子賞』 受賞校の紹介

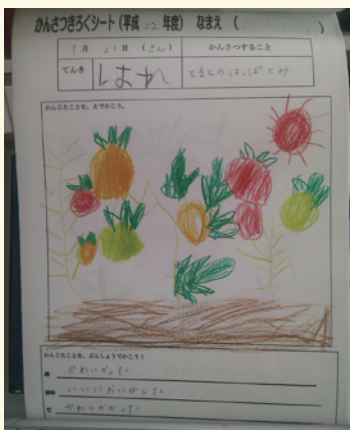
カゴメは、これからも子どもたちにとって「凜々子」がよりよい栽培体験の機会となるよう、当活動の充実を図る目的で、毎年「凜々子栽培レポート」を募集しています。先生方から届くレポートには、カゴメが知り得なかった子どもたちのたくさんの発見と成長、また、ご指導に当たられた先生方のお知恵や工夫など、たくさんの貴重な情報が含まれています。これらはカゴメが当活動を続ける上での励みとなっており、また、全参加校で共有することで、より多くの子どもたちに充実した栽培機会を提供できると考えています。

2010年度は応募総数98通の中から、次に紹介する5校を『凜々子賞』として選出させていただきました。各校・園の詳しい取り組み内容は、ウェブサイト(右ページ参照)に公開しています。貴校・貴園の栽培計画のご参考として、ぜひご一読ください。

活動ハイライト



お絵かきや観察レポートを通じて、“観察の視点”を身に付けることができた。



五感を使った観察で得た「驚き」や「発見」を素直にレポート。文章は保育士が記録した。



平井 和代先生

「凜々子」栽培活動が培った根気・本気・真剣さ

栽培活動は2年にわたり体験できるように工夫しています。4歳児クラスでは全員で育てることで植物への興味関心を高め、5歳児では1人1鉢で栽培して、植物への愛着と責任を持ち、「発見」や「驚き」に気付くことをねらいとしました。

「凜々子」という本格的な教材を扱う中で、ひとつのことやりとげると、子どもたちが教材に向き合い、触れ感じることから、真剣さや大切さ、愛しさという想いが自然とわいてくるのが大切なのだと感じました。また、保育には根気・本気・真剣さが必要だと改めて実感しました。私たちは「食」は生きるうえでの基本だということを、就学前に保護者にも子どもにも気づいてもらいたい」という思いで取り組んでいます。それを活動を通じて伝えられたように思います。また、保護者との連携を図れたことも、大きな成果につながったと思います。

社会福祉法人ふじ福祉会
ふじ保育園
4、5歳児

テーマ

「凜々子」 で育む 体と心の栄養

活動のきっかけ

「凜々子」栽培が、栽培を伴う食育に力を入れている園の方針に合致しているから。

活動のねらい

- 1人1鉢で栽培することにより、「発見」や「驚き」に気づき、同時に達成感も味わう。
- 収穫したトマトを調理して食べることで食物への感謝の気持ちを持つ。
- 家庭で調理することで、親子のコミュニケーションや食への意識を高め知識を育む。

山口県光市立
岩田小学校
1年生 / 生活科

テーマ

「凜々子」で 広げよう ～食と人～

活動のきっかけ

子どもたちの豊かな心の育成と、人・物・自然とのふれあいの一環として。

活動のねらい

- 栽培・加工・調理などの体験を通して、食への関心を持つ。
- 「できた!」という体験を重ね、自分自身への満足感を持つ。
- グループでの活動や全校児童と関わりを持つ中で、人とのつながりを意識しながら考え、行動する。

福岡県宗像市立
玄海東小学校
2年生 / 生活科

テーマ

元気な土で トマトを 育てよう

活動のきっかけ

給食残渣を使ったたい肥づくりと、栽培活動の実践として。

活動のねらい

- 地域の有識者に学び、たい肥づくりに挑戦!
- 残った苗を学校園に植えて収穫量を確保! 調理の実践につなげる。
- 「凜々子フォーラム」をフル活用! 栽培のコツや簡単料理を即実践。

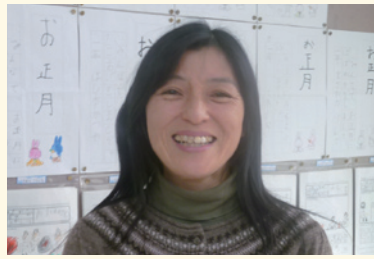
活動ハイライト



8月1日の登校日には266個を収穫。ガス火であぶって皮をむき、生でそのまま試食。



全校児童200人分のギョーザピザをホットプレートで焼いて「31人のピザハウス」を開店。



田中 崇江先生

「31人のピザハウス」
開店!
収穫の喜びを
わかちあう

定植の際に「収穫したら調理してみんなで食べよう」と目標を立てて、取組みをスタート。夏休み明けに食べ方を話し合い、収穫した「凜々子」でトマトソースをつくりました。その際「いつも優しく接してくれる上級生にも食べさせてあげたい」という意見がでて、ギョーザピザを全校児童にふるまうことにしました。そこで「31人のピザハウス」という名のピザ店を企画。メニューを決め、全校児童200人分のチケットや紙皿を手づくりするなど、全員が協力して準備をし、当日は他学年にもギョーザピザでトマトソースを味わってもらうことができました。後日、お礼の手紙をもらい、子どもたちの喜びと自信につながりました。

「凜々子」は手をかけずに丈夫に育ち、収穫しやすいのがよいです。子どもたちはもちろん、保護者の方にも喜んでもらえる、活動体験にふさわしい素材だと思います。

活動ハイライト



給食残渣を細かくちぎる。最初は「汚い」と言っていた子どもたちも、最後は素手で作業できるように。



たい肥の発酵熟成では温度管理が大切。毎日の当番を決めて、かき混ぜて空気を入れ、温度を測り管理した。



亀石 ひとみ先生 / 松本 博文先生

自分で作った
たい肥で栽培、
命の循環を
実感

九州大学の先生との縁がきっかけで、給食の食べ残しからたい肥を作り、「凜々子」を栽培する実践を行いました。また、トマトを収穫して食べることを通し、食べ物の命の循環を感じる実践を行うことにしました。私も児童も初めての経験です。手探りの実践は失敗も多く、たい肥を発酵させている途中の段階ボールを玄関に置いてしまい、臭いに閉口したり、虫がわいたり…。また鉢栽培では土の量が少なすぎて、途中から土を追加したものの収穫量は少なく、実が小さくなってしまったり。課題が多く残りました。しかし、給食の食べ残しがたい肥に変わり、それを土に混ぜ込むことでトマトの命が育ち、そのトマトを食べることで子どもたちの命につながった。この命の循環は子どもたちの記憶にしっかりと刻まれたと思います。

宮城県大和町立
吉田小学校

2年生 / 生活、国語、
図画工作、算数

テーマ

気付きを深め、
学びを広げる
「凧々子」栽培を
核とした
合科的・関連的な指導

活動のきっかけ

従来のサツマイモや麦栽培に
替え、生長の変化がよくわか
り、調理が簡単な「凧々子」
を選んだ。

活動のねらい

- 年間を通じた体験活動を通
して、体験したことや調べた
ことを互いに伝え合ったり、
交流したりする。
- 自分の考えや思いを相手に
伝える力をつける。
- ものごとを関係的に見たり、
筋道をたてて考えたりする
力を育てる。

生活科から広げ

国語、算数、

図画工作と

年間の取組みに



齋藤 賢一先生

「凧々子」栽培を体験活動
の核として、生活科の他に
国語(作文、手紙作成)、算数
(長さと数)、図画工作(絵
画表現)と関連させた年間
の取組みを計画しました。
使用した生活科シートは、
国語と関連づけて文章は縦
書きとし、慣れるまでは目
鼻、手、心という観点で文章
を書く指導を行いました。
年間で25枚にもなった生活
科シートは、子どもたちそ
れぞれが自分自身を振り返
るよい機会となるだけでな
く、作文や絵画表現の際に
大いに役立ちました。さら
に、完成した作品を発表す
る場を設けるようにしたこ
とで、子どもたちは自分自
身の言葉で気付いたことや
調べたことなどを発表し、
友達の発言からは新たな気
付きを得て、相互理解を深
めることができました。この
ような活動を通して、子ども
たちが自分の成長を実感で
きる学習活動になりました。

活動ハイライト

算数と関連づけて定規を使って高さや幅を測り、
生活科シートに記録した。



「凧々子」の世話を続けていく中で、
気付いたことは発表会を開いて全員で
共有。

新潟県新潟市立
真砂小学校

特別支援学校
2~6年生

生活単元学習、国語科

テーマ

「凧々子」ジャム
は魔法の味
~伝えよう! 凧々子のよさ~

活動のきっかけ

本誌で他校の実践を知り、
「凧々子」を核にした年間の
食育活動を深めたいと考えて。

活動のねらい

- 仲間と協力し愛情を持って育
てる中で、思いやりの心を養
い、収穫の喜びを味わう。
- 自分なりに工夫して、観察カ
ード、グラフに記録しまとめる。
- 「凧々子のよさ」を「誰に・ど
のようにして」伝えるかを考
え、企画・運営・発信し、食へ
の関心を高め、学校・家庭・
地域へ交流の輪を広げる。

子どもたちの

「伝えたい」

思いを

引き出した活動



西野 智美先生 / 松澤 真実先生

本誌で他校の実践を見
て「凧々子」に強く興味を
持ち、今まで別々の単元と
して活動してきたことを
「凧々子」を核として年間
を通して食育活動に組み
直し、活動を深めたいと考
えました。「凧々子」とい
う珍しいトマトを栽培したこ
とが、子どもたちの「伝え
たい」という思いを高めて
いったのだと思います。
その思いを「伝える」機会
として、新聞づくりをはじめ、
俳句カルタを作り、他クラ
スの児童や家庭、地域に発表
することで、子どもたちは自
分の活動に対して感想をもち
うことができ、達成感につな
がりました。さらに、収穫し
た「凧々子」と野菜を使って、
ピザやジャムをつくり、加
工販売を行った日参観日に
保護者につながる日頃の
感謝の気持ちを伝えたりと、
イベントを通して双方の
交流が図れたことは、活動
の大きな成果となりました。

活動ハイライト

国語科での「凧々子新聞」。観察カードや調べ
たことを記事にまとめ、参観日に発表した。



「凧々子」ジャムはトマトを好きになる魔法の味。1年生に食べてもらい「凧々子のよさ」を知ってもらった。